

# 「首切り合理化推進、 「スト放棄」の奴隷の誓い

## 「労働期間高」を弾劾せよ

### 右翼異・ファシスト連合！！ 動労革マル・鉄労・全施労を国鉄労働運動から放逐せよ！！

一月十三日、国鉄当局と動労「本部」・鉄労・全施労の三組合は、「国鉄改革を目指し一致協力して取り組む」ことを旨趣とする共同宣言を発した。これは、国鉄史上はじめて以来の暴挙であり、その内容はまさに「奴隷宣言」そのものである。われわれは、かかる反労働者の行為を断じて許さない。動労「本部」革マル・鉄労・全施労の極右プロックの屈服をのりこえ、「分割・民営化」―十万人首切り阻止―真に労働者の未来を切り拓くため、全国鉄労働者の怒りをさらに結集し、第二波・第三波の闘いで決起しよう。

『共同宣言は「首切り宣言」  
「奴隷宣言」だ』

労・使共同宣言そのものが決して許せるものではないが、その内容たるや、まさに骨の髄まで当局に屈服し、労働者を奴隷の道へ引きずりこむものである。

『共同宣言は、(1)国民各層の信頼と支持を得るため労使はその立場をこえ、以下の点について最善の努力をつくす。①労使は諸法規を遵守する。②リボン、ワッペン不着用、氏名札の着用。③飲酒・酒気帯び勤務、点呼妨害等企業人としてのモラルにもとる行為の根絶、②鉄道事業の再生を図るため、必要な合理化は労使が一致協力して積極的に推進する。』

(3)余剰人員対策について。①派遣制度・退職勧奨の積極的推進。②二万人の希望退職についても積極的に取り組む。(4)これらを積極的に推進するための労使間の話し合いの場を活性化していく、等ということである。

「ストはやらない。職場規律は守る。合理化は推進する。三本柱ばかりか、希望退職にも取り組む。これでは、生活の場の確保どころか、追い出し、首切り推進である。こんな労組などいりやしない。骨の髄まで腐り切った革マル松崎を断じて許すな宣言を受け入れた後の記者会見で、動

労革マル松崎は「もつと早く出してしかるべき」「これからは、組合、イデオロギ―、ナショナルセンタ―などは度外視し、鉄労には御指導をお願いする。国労がノーといつても遠慮しない」「改革まではストはしない方向でやっていく」と発言している。

これが革マル松崎の本性だ。すでに、一月九日の三里塚運輸大臣との会見でも「新会社を黒字にする対策を講じてほしい」と申し入れるなど「分割・民営化」に大賛成を表明している。こんなやつを許せるか。

狙いは国労解体、  
十万人首切り貫徹だ

この宣言は、第一に労働運動の産業報国会化、右翼労働統一への道を拓くものであり、第二に何よりも国労中央のさらなる屈服を引き出さんとする国労解体攻撃そのものであり、第三に「分割・民営化」をさらに既成事実化し、十万人首切りへ大きくはずみをつけようとする凶暴な攻撃である。

敵は一気に勝負に出ようとしている。われわれは、職場・生産点の全国鉄労働者の怒りに依拠し、結集し、これと真向から対決する。第二波・第三波の闘いで必ず「分割・民営化」―十万人首切り阻止を実現するため総反撃にうつてよう。